

性を向上させた。

同製品の販売価格は従来品と同設定で、同製品の適用により仕上げから中仕上げ加工領域における鉄切削加工の高速化と安定した工具交換サイクルを実現し、加工コストの大削減が可能となった。また鉄切削用途において、鉄肌・断続加工得意とする「エースコートAC420K」と組み合わせることで、仕上げから粗加工、連続加

工から強断続に至る全ての領域をカバーする「AC400Kシリーズ」が完成、鉄切削加工の大幅な効率向上、加工コスト削減が可能となる。

同製品のリリース時期は、ラインナップ中124アイテムを2012年1月16日より、残り150アイテムを3月中旬より発売を予定しており、同社では販売計画を、初年度が4億円、3年後には17億円を見込んでいる。

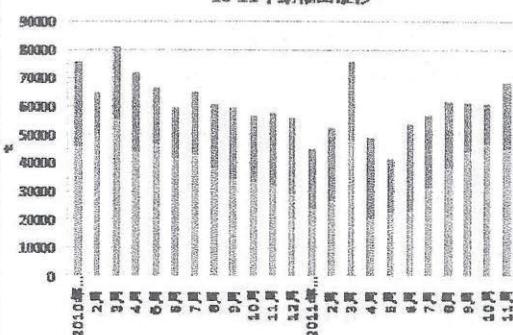
12月の銅スクラップ及び1月の見通し 橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

概況

前半は日米欧の中央銀行によるドル協調供給拡大や米ADP雇用レポートやシカゴPMI指数の好調さらに3年ぶりとなる中国預金準備率の引き下げを好感し7900ドル近辺まで上昇するも、期待の欧州会合の結果を受けて米格付け会社S&Pやフィンチが15カ国の格下げ検討との報道、独メルケル首相が欧州債務問題について早期解決策はないなどのマイナス発言を受けて暴落、結果7350ドル(セツル)と約550ドル暴落しての前半締めとなった。後半は北朝鮮の金総書記死亡による朝鮮半島情勢不安や、米格付け会社S&Pがスペイン、イタリアを含む欧州6国の長期国債の見直しを行うなどのマイナス要因はあったものの、独IFO企業景況感指数の好調やECB初の資金供給オペの額が市場予測を大きく上回る4900億ユーロだったこと。12月の中国銅輸入が堅調だったこと、さらに米ゴールドマンサックスが2012年の銅価格の見通しについて強気だったことから1月11日現在、7641ドル(セツル)前半締めから250ドル強上昇、建値62万円のスタートとなつた。

	9月	10月	11月
電気銅	4万3816t	4万6384t	4万4532t
前月比	+15%	+5.9%	-4%
スクラップ	1万7875t	1万4786t	2万3384t
前月比	-24.6%	-17.3%	+58.1%

10-11年銅輸出推移

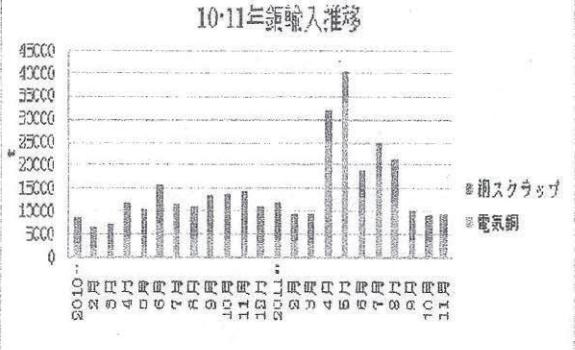


前月の経済指標

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前月比-7.3%の83万8135台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前月比-12%の24万7927台。(前年比+23.5%)、3ヵ月間の自動車生産計画は昨年対比+16.7% 262万台となった。国土交通省による新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)+9.1%(昨年比-0.3%)の7万2635戸であった。貿易関連指標では、財務省貿易統計による輸出は、前月比で電気銅が-4%4万4532t、ス

自動車生産台数	9月	10月	11月
生産台数	88万3593台	90万4247台	83万8135台
前月比	+25.4%	+2.3%	-7.3%
昨年対比	-4.5%	+20.3%	+4.5%
自動車販売台数	12月	1月	2月
生産計画台数	82万7400台	84万3300台	96万2200台
前月比	-10.8%	+1.9%	+14.1%
新設住宅着工数	9月	10月	11月
季節調整 前月比	6万4206戸	6万7213戸	7万2635戸
昨年対比	-20.2%	+3.9%	+9.1%
輸入	9月	10月	11月
電気銅	3804t	3400t	4650t
前月比	-68.2%	-10.6%	+36.8%
スクラップ	6199t	5600t	4666t
前月比	-32.6%	-9.7%	-16.7%

10-11年銅輸入推移



ラップが+58.1%の2万3384t。輸入は電気銅が前月比+36.8%の4650t、スクランプー16.7%の4650tとなった。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前月比+0.6%の6万5940t(昨年対比-10.4%)、日本電線工業会発表の出荷速報(推定)では前月比-0.1%の6万400t(昨年対比-0.4%)となった。

■見通し

今月も好調な自動車関連以外が生産、在庫調整が進んだ月となった。自動車生産は前年比+4.5%の83万8135台と上昇、4カ月連続で震災前の水準にもどり、また国内自動車販売台数も22万1960台と前年比+23.5%と急回復、販売回復機運は堅調。仕様用途が多い伸銅品生産量は前月比+0.6%の6万5540tと昨年対比(-10.4%)と6カ月連続の前年割れで、銅電線出荷量は、前月比-0.1%の6万400t、昨年対比-0.4%とほぼ横ばい。新設住宅着工数は季節調整前月比+9.1%の7万2635戸。前年比

は-0.3%と需要低迷も底入れか。輸出に関しては前月までの緊急輸入の電気銅の荷余り感も一服、電気銅輸出が前月比-4%の4万4532tと4カ月ぶり減少した。輸入も在庫調整が一服、電気銅は前月比+36.8%の4650tとなった。銅需給に関しては、自動車関連には本格的な需要を前提とした販売・計画が続いており、販売面でも自動車が前年比+24%と大幅回復した。その他の関連は、前月に続き小幅調整している伸銅品、黄銅棒の生産は需要の悪化から引き続き調整がつづくであろう。緊急輸入がされていた電気銅は今月、前月比+37%と再び増加し調整が進んだとの見方もあり来月が注目。銅価格に関しては、欧洲債務問題は一喜一憂。今後も不透明感が続く、ただ前月に続き米経済が好調のようであり、また11.12月の中国銅輸入の増加から中国筋の積み増しが予測でき、ファンダメンタルズは比較的堅調。新年度需要が期待される3月まではFRBの追加的金融緩和、中国の金融緩和などの実行への思惑からLME価格で7500-8100ドル。銅建値に関しては62-67万円程度と予測。

故銅 市況

引き続き商いは少なく様子見商状 建値計算値は2万円以上の上げ込み

12日の故銅市況は、建値改定も見送られたことから手がかり材料少なく様子見待ち合い。荷動きも相変わらず閑散としたままで、扱い筋からは「相場が動きそうな時は荷物も出てこない」との声があがっている。

同日入電の海外相場は、LMEの在庫減少にも見られるように商いが活発で、LME銅相場は前日比1ドル上昇し7,700ドル、NY銅相場は前日比3.15セント上昇し354.15セントとなった。

為替動向は、前日に引き続き手がかり材料に欠け小動きで、TTTは前日比0.03円、円安・ドル高の77.92円となった。なお、NYカーブ(現物換算)はLME先物比95.5ドル高で、これらをもとにした国内採算値は前日比5,800円高の64万5,400円となり、建値計算値は2万円強の上げ込み。ただ、前回改定からまだ日が浅いこともあってか、この日の建値改定は見送りとなっている。引き続き海外相場の動向に注目が必要だ。

現行建値水準におけるロット物(5トン前後)の希望価格は、ピカ線は54万円~54万5,000円、要り用筋で55万円どころ。また、その他の品種はそれぞれ、上銅新のうちタフピッチや無酸素銅などは52万円~52万

5,000円、並銅は47万円、込銅(高品位=約97%)は45万円、セバは39万円、ユーペルは要り用筋で34万円でそれ以外は32万5,000円、黄銅削粉も同様に要り用筋で33万5,000円でそれ以外は32万円どころ、並青銅鑄物削粉は39万5,000円どころが中心の相場観。

小口の市中相場(1トン前後)はピカ線52万5,000~54万円、上銅新くず50万5,000~52万円、普通上銅47万5,000~50万円、2号銅線45万~47万円、並銅45万~47万円、込銅(高品位)42万5,000~45万円、込銅(低品位)40万~42万5,000円、下銅36万~40万円、セバ37万~38万5,000円、ユーペル31万~34万円、黄銅棒地33万円~34万5,000円、黄銅削粉27万5,000~32万円、黄銅ラジエター21万1,000円~21万9,000円、交叉ラジエター26万8,000円~27万9,000円、黄銅鑄物28万8,000円~29万5,000円、同山送り16万7,000円~18万8,000円、上青銅鑄物41万3,000円~42万7,000円、並青銅鑄物38万7,000円~40万2,000円、上青銅鑄物削粉40万2,000円~40万8,000円、並青銅鑄物削粉37万7,000円~39万8,000円どころの様子。